



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 138

2013. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 宮坂元裕

ニュース担当 北川智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

教育実習

日本美術教育連合常任理事 大坪圭輔

6月は、教育実習が盛んに実施される時期です。実習を受け入れる側からも送り出す側からも、昨今の実習生については、これまで以上に気を遣い配慮を濃やかにした指導が必要であるとの声を多く耳にします。要するに手がかかるということです。実習の場である初等中等教育の学校現場が、教育の最前線として、日々の緊張感が高まってきている状況に相反して、感度の低い実習生が増えてきているとの実感は確かにあります。大学からの指導者派遣で学生の実習先に赴くときには、まず校長先生や担当の先生に「ご迷惑をかけて申し訳ありません。」と謝るところから始めるのが、私自身の中で習慣化してきている程です。

教育活動の根底に主体性や自主性があることは言うまでもありませんが、指示されたことを真面目に学ぶという姿勢で育ってきた多くの学生たちにとって、自ら周りの状況を察知して適切な判断をし、積極的に行動するということは最も苦手とするところです。特に図工美術の教科は、授業の構想から準備までかなりの労力と時間を要します。授業に必要な道具を揃えるだけでなく、児童生徒の状況を把握し、起こりうる学びの場をイメージして準備をすることが、指導案からは直接読み取れない図工美術を担当する教師の基本的な指導力のひとつであり、そこには日常的な姿勢としての主体性や自主性が必要です。そのようなことも含めて経験的に学ぶ機会が教育実習であるかもしれませんが、それには今の学校現場は多忙過ぎるようです。

教員養成に関する議論が活発な中で、「実習公害」なる言葉さえ使われるようになってきましたが、そのような認識では社会が期待する教員養成は成立しません。現在、すでに様々な場所で展開されている地域や学校と大学との連携を始めとして、多様な場と人々とのかわりの中で学ぶ機会を増やすことが、自ら成長しようとする意志を持った教師の育成につながると考えます。

第47回 日本美術教育研究発表会2013 案内

1. 日時 平成25年10月20日（日） 9時～17時30分（予定）
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 図書館棟
〒173-8602東京都板橋区加賀1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
4. 後援 文部科学省（申請中）

公益社団法人 日本美術教育連合 第3回通常総会
＝ 講演会の記録 ＝

日時 平成25年4月21日（日）

会場 武蔵野美術大学 新宿サテライト

東良雅人先生（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

『子どもたちが形や色で生み出すつながり』

本年4月、高等学校の学習指導要領が、今年度の入学者から学年進行で実施されるようになり、これで小学校から高等学校までの新しい学習指導要領が実施されたことになります。

全ての子どもは豊かな存在であります。はじめに一人の男の子が3歳から22歳までに描いた絵を117枚お見せします。このことを通して、どのような子でも子どもは豊かな存在であることをお示したいと思います。この子どもの学びを見ると、中学生は、いきなり中学校の1年生になるわけではないということが分かります。小さな子どもが幼稚園に入り、小学校に入り、やがて中学生になり、高校、大学と、子どもが自分の中で学びを「つなげて」成長していくのだと思います。



次に埼玉県の中学生の作品をお見せします。この絵と絵のことを書いた子どもの言葉から、子どもがやるべきことを理解し、自分のやりたいことを見つけて創意工夫して表現していることがわかります。これは、先生が授業で子どもたち一人一人のやりたいことをしっかりと見つけさせて、それがやれるようにしているからだと思います。先生が子どもにやらせたいことだけで授業しても、こうはなりません。また、子どもがやりたい放題やってもこうはなりません。先生が育みたいことと、子どもがやりたいことが一致した時、結果としてこのような作品が生まれてくるのだと思います。

学習指導要領が全面実施された今日、もう一度、平成20年1月に中央教育審議会からだされた、学習指導要領等の改善に関する「答申」に立ち戻ることは必要だと思います。その中にある図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）の改善の基本方針の最初の部分には「創造することの楽しさを感じ取るとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。」と書かれています。これは、その文章の前にある「その課題」をふまえています。それは答申本文の下の方に小さな字で書かれていますので見落とされがちですが、大変重要なことが書かれていますので、是非一度読んでいただきたいと思います。そして書かれている課題をどのように授業に生かすかということが大切になります。改善の基本方針に戻りますと、今回、小学校と中学校の両方に領域や項目などを通して共通して働く資質や能力として〔共通事項〕を設けたことが今回の特徴です。このことによって最初に述べた形や色などを通した学びの「つながり」がより明確に意識されるようになりました。

さて、中学校美術科の新しい学習指導要領は、前回の学習指導要領の表現も鑑賞のそれぞれの領域の目指してきたことを引き継いでいます。例えば「A表現」では、絵や彫刻、デザインや工芸という

ところでどうしても先生方の目がいってしまいます。しかし、発想や構想の能力、創造的な技能という表現の能力の観点からみますと、題材において何をするのかではなく、何のためにするのが大切だと思います。ここに2種類の器があります。一つは「使う人の気持ちを考えて作った器」であり、もう一つは「自分の気持ちを入れる器」です。この二つは見た目には同じでも、目的や内容が違うのです。多分、先生が単に「次は器をつくる授業をしよう」程度で授業づくりをしているとすれば「自分の気持ちを入れる器」という題材は生まれてはこないでしょう。子どもに身に付けさせたい力から考えることで、このような授業が生まれるのです。先生の頭の中で完成した作品のイメージばかりが先行してしまえばこのような授業は生まれないのではないのでしょうか。

〔共通事項〕についてですが、子どもが気づく前に形、色、イメージがあるのではないのです。ここに中学1年生の「私の心の色」という実践例があります。心の様子をイメージして色を考え、その色を効果的に使って絵を描くという実践です。この絵の具はチューブに入れ、絵の写真を付けて売り出したところ完売したそうです。この実践の中に、形、色、イメージが入っているのです。ここでは〔共通事項〕の視点が生きています。

今回、小学校図画工作科の目標に「感性を働かせながら」という文言が加えられました。私たちはこれまでも子どもたちの「感性」を大切にしてきました。その感性ですが、先生が「さあ、あなたたち今日は感性をはたらかせるのですよ」といってはたらくものではありません。これは北九州の実践ですが、木を描くのではなく「木の生命を描く」という題材を実践したものです。授業の前に木に触ったり、木の中を流れる水の音を聞いたり、遠くから眺めたりした後で「木の生命」について考えながら描いた絵です。このように体全体の感覚も十分働かすことで感性は育つのではないのでしょうか。

子どもの学びの「つながり」を考える上で、年間指導計画をしっかりと考えるということは本当に大切なことです。これは岩手県の写生会を通した実践例です。1年生では、木を主題としてしっかりと見つめて描かせています。2年では「奥行きのある風景」とし遠近感などに注目させて描かせています。そして3年生では「残したい心の風景」として、心の中にある木を描くのです。これは指導者が子どもの学びをしっかりと積みあげている例です。このように成長を見ながら年間指導計画の縦横の関連がしっかり組みあがっていると、小学校、中学校、高校と「つながり」ができるのではないのでしょうか。それと関連して学習評価の計画については、測ることだけではなく、学習評価によって子どもを育てる。教師の授業改善に役立てるという側面も重視しなければならないことを忘れないでほしいと思います。

最後に地域との「つながり」の例としては、中学生が地域の商店とタイアップして包装紙を作り、デザイナーの助言によって実際の包装紙に活用した例です。また違う例では、中学生が大学に行って染色を学び、小学生と染色の作品を制作したのち、地域の人と川を掃除し、川で糊抜きをするという実践例です。このような指導者が意図的に授業づくりを行うことで、活動を通して人とのつながりが生まれ、より子どもたちが実感をもちながら学びを深めることにつながるのだと思います。

最初に述べましたように、子どもは豊かな存在であります。子どもたちの中に形、色、イメージを通して子どもたちを「自分の世界観を持つ豊かな存在」にしていく教科が、図画工作や美術、芸術科（美術、工芸）なのではないのでしょうか。

※膨大な資料映像をもとにお話いただきましたので、内容を要約させていただきました。

文責、宮坂元裕

平成 24 年度 事 業 報 告

平成24年

- 4月19日(木) 会計監査が藤崎典子、山田一美、両監事により筑波大学附属小学校において行われた。
- 4月22日(日) 第2回定時総会が聖心女子大学において開催された。
同日、同会場において文部科学省教科調査官岡田京子先生の講演会が開催された。
- 5月28日(月) 事業局主催「(仮称)鑑賞教育ライセンス講習会」準備会を聖心女子大において水島尚喜、奥村高明、西村德行、宮坂元裕で行った。
- 6月24日(日) 第1回理事会・運営委員会・講習会準備会が筑波大学附属小学校で開催された。
- 7月12日(木) 事業局主催「(仮称)鑑賞教育ライセンス講習会」第2回目の打ち合わせを日本美術教育連合事務所(文京区本郷)において水島尚喜、榎原弘二郎、奥村高明、西村德行、宮坂元裕で行った。
- 8月10日(金) 日本美術教育連合ニュースNo.135が発行された。
- 9月2日(日) 第2回理事会・運営委員会・論集編集委員会が筑波大学附属小学校で開催された。
- 9月10日(月) 日本美術教育連合ニュースNo.136が発行された。
- 10月5日(金) 「造形・美術教育力養成講座」〈第1期〉子どもの鑑賞力をひらく。
全8回の第1回をCCAA(NPO市民の芸術活動推進委員会 四谷アートプラザ)において講師、奥村高明が担当して開催された。
- 10月13日(土) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第2回がCCAAにおいて講師、奥村高明によって開催された。
- 10月14日(日) 第2回(通算46回)日本美術教育研究発表会が東京家政大学において開催された。
- 10月21日(日) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第3回がCCAAにおいて講師西村德行によって開催された。
- 10月28日(日) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第4回がCCAAにおいて講師西村德行によって開催された。
- 11月4日(日) 公益社団法人日本美術教育連合と芸術教育文献アーカイビング研究会の共催による全米美術教育学会(NAEA)会長 ロバート・セイボル博士講演会が東京国立近代美術館講堂で開催された。
- 11月9日(金) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第5回がCCAAにおいて講師水島尚喜によって開催された。
- 11月15日(木) 日本美術教育研究論集2013 No.46 論文応募締切り
- 11月16日(金) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第6回がCCAAにおいて講師榎原弘二郎によって開催された。
- 11月23日(金) 第3回 理事会・運営委員会・論集編集委員会が筑波大学附属小学校で開催された。
- 11月23日(金) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第7回がCCAAにおいて講師藤崎典子によって開催された。
- 12月1日(土) 「造形・美術教育力養成講座」全8回のうち第8回がCCAAにおいて講師橋本光明によって開催された。
- 12月9日(日) 第4回 理事会・運営委員会・論集編集委員会が筑波大学附属小学校で開催された。

平成25年

- 1月27日(日) 第5回 理事会・運営委員会・論集編集委員会が筑波大学附属小学校で開催された。
- 3月10日(日) 日本美術教育連合ニュースNo.137が発行された。
- 3月31日(日) 日本美術教育研究論集2013 No.46が発行された。
- 4月7日(日) 第6回 理事会・運営委員会および会計監査が筑波大学附属小学校で開催された。
- 4月21日(日) 第3回定時総会を開催。

(1) 貸 借 対 照 表

平成25年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,469,204	223,272	1,245,932
流動資産合計	1,469,204	223,272	1,245,932
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	2,600,000	2,600,000	0
図書	2,500,000	2,500,000	0
基本財産合計	5,100,000	5,100,000	0
(2) 特定資産			
新事業準備預金	28,482	26,914	1,568
特定資産合計	28,482	26,914	1,568
(3) その他固定資産			
敷金	60,000	60,000	0
その他固定資産合計	60,000	60,000	0
固定資産合計	5,188,482	5,186,914	1,568
資産合計	6,657,686	5,410,186	1,247,500
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	615,510	0	615,510
借入金	650,000	650,000	0
預り金	23,000	0	23,000
流動負債合計	1,288,510	650,000	638,510
負債合計	1,288,510	650,000	638,510
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	5,369,176	4,760,186	608,990
(うち特定資産への充当額)	(28,482)	(26,914)	(1,568)
正味財産合計	5,369,176	4,760,186	608,990
負債及び正味財産合計	6,657,686	5,410,186	1,247,500

(2) 正味財産増減計算書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,564	0	1,564
特定資産運用益			
特定資産受取利息	4	1,693	△ 1,689
受取入会金			
受取入会金	39,000	18,000	21,000
受取会費			
受取正会員会費	1,298,000	995,000	303,000
受取賛助会員会費	137,000	137,500	△ 500
事業収益			
論集広告料	155,000	195,000	△ 40,000
論集掲載料	291,000	211,500	79,500
受取補助金等			
懇親会費	0	222,000	△ 222,000
受取寄付金	632,000	777,500	△ 145,500
受取利息	36	39	△ 3
雑収益	45,500	44,400	1,100
経常収益計	2,599,104	2,602,632	△ 3,528
(2) 経常費用			
事業費			
消耗品費	0	3,000	△ 3,000
印刷製本費	754,200	807,455	△ 53,255
通信運搬費	107,800	126,040	△ 18,240
賃借料	26,500	0	26,500
諸謝金	150,000	55,000	95,000
会議費	36,837	38,000	△ 1,163
雑費	1,470	3,870	△ 2,400
管理費			
会議費	197,012	174,948	22,064
旅費交通費	2,500	9,150	△ 6,650
通信運搬費	35,460	112,650	△ 77,190
光熱水料費	3,600	2,100	1,500
地代家賃	390,000	301,128	88,872
懇親会費	0	364,529	△ 364,529
保険料	0	20,000	△ 20,000
消耗品費	5,230	4,167	1,063
支払負担金	30,000	64,900	△ 34,900
計算書類作成費	241,500	304,960	△ 63,460
雑費	8,005	91,905	△ 83,900
経常費用計	1,990,114	2,483,802	△ 493,688
当期経常増減額	608,990	118,830	490,160
当期一般正味財産増減額	608,990	118,830	490,160
一般正味財産期首残高	4,760,186	4,641,356	118,830
一般正味財産期末残高	5,369,176	4,760,186	608,990
II 正味財産期末残高	5,369,176	4,760,186	608,990

(3) 財務諸表に対する注記

1. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
図書	2,500,000	0	0	2,500,000
小計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産				
新事業準備預金	26,914	1,568	0	28,482
小計	26,914	1,568	0	28,482
合 計	5,126,914	1,568	0	5,128,482

2. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	2,600,000	0
図書	2,500,000	0	2,500,000	0
小計	5,100,000	0	5,100,000	0
特定資産				
新事業準備預金	28,482	0	28,482	0
小計	28,482	0	28,482	0
合 計	5,128,482	0	5,128,482	0

(4) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
	図書	2,500,000	0	0	2,500,000
	基本財産計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産	新事業準備預金	26,914	1,568	0	28,482
	特定資産計	26,914	1,568	0	28,482

(5) 財 産 目 録

平成25年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物置等	使用目的等	金 額	
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	124,013	
	通常預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	141,531	
	振替貯金	ゆうちょ銀行	運転資金として	1,203,660	
流動資産合計				1,469,204	
(固定資産)	基本財産				
		定期預金	三菱信託銀行上野支店	運用益を公益目的事業に使用する。	2,600,000
		図書	山形文庫 2,003冊 筑波大学芸術学系保管	調査研究の資料として活用している。	2,500,000
	特定資産	新事業準備預金	三菱信託銀行上野支店	運用益を法人会計の収入に活用する。	28,482
	その他固定資産	敷金	文京区本郷2-30-14	事務所敷金	60,000
	固定資産合計				5,188,482
資産合計				6,657,686	
(流動負債)	未払金	上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第46号 印刷代	576,510	
	未払金	田畑謄写堂	連合ニュース137号印刷代	39,000	
	借入金	宮坂元裕	運転資金	650,000	
	預り金	練馬西税務署	計算書類作成報酬 源泉所得税	23,000	
流動負債合計				1,288,510	
負債合計				1,288,510	
正味財産				5,369,176	

会計監査報告書

平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）の事業報告並びに収支計算書につき監査の結果、予算執行、経理事務処理等が適正であることを認めます。

平成25年4月7日

公益社団法人 日本美術教育連合

監事 北川 智久 

監事 郡司 明子 

平成 25 年度 事 業 計 画

平成25年

- 4月21日（日） 第3回定時総会・講演 文部科学省教科調査官東良雅人先生
会場 武蔵野美術大学新宿サテライト
- 5月 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅱ期〉」準備会
- 6月 日本美術教育連合ニュースNo.138発行
- 6月30日（日） 第1回理事会・運営委員会および講習会準備会
- 8月26日（月）～28日（水）
事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅱ期〉」計8回開催を予定
- 9月1日（日） 第2回理事会・運営委員会および論集編集委員会
- 9月 日本美術教育連合ニュースNo.139発行
- 10月20日（日） 第3回（通算47回）日本美術教育研究発表会 会場 東京家政大学
- 11月13日（水） 日本美術教育研究論集2014 No.47論文応募締切り
- 11月24日（日） 第3回理事会・運営委員会および論集編集委員会
造形美術教育フォーラム
- 12月8日（日） 第4回理事会・運営委員会および論集編集委員会
- 12月13日（金） 投票締め切り
- 12月15日（日） 開票

平成26年

- 1月26日（日） 第5回理事会・運営委員会（次期役員決定）論集編集委員会
- 2月 日本美術教育連合ニュースNo.140発行
- 3月16日（日） 第6回理事会・運営委員会
- 3月31日（月） 日本美術教育研究論集2014 No.47発行
- 4月6日（日） 第7回理事会・運営委員会および会計監査

4月20日（日） 第4回 定時総会 教育講演会 会場未定

収 支 予 算 書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	4,000	4,000	0
受取入会金			
受取入会金	30,000	30,000	0
受取会費			
受取正会員会費	1,140,000	1,200,000	△ 60,000
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0
事業収益			
論集広告料	200,000	200,000	0
論集掲載料	300,000	300,000	0
受取補助金等			
寄付金収入	300,000	200,000	100,000
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	2,125,000	2,085,000	40,000
(2) 経常費用			
事業費			
雑給	0	0	0
消耗品費	2,000	2,000	0
印刷製本費	700,000	700,000	0
通信運搬費	200,000	200,000	0
賃借料費	442,000	442,000	0
諸謝金	100,000	100,000	0
資料費	5,000	5,000	0
会議費	15,000	15,000	0
管理費			
給料手当	0	0	0
会議費	200,000	200,000	0
旅費交通費	10,000	10,000	0
通信運搬費	40,000	40,000	0
消耗品費	5,000	5,000	0
印刷製本費	40,000	40,000	0
支払負担金	30,000	30,000	0
計算書類作成費	200,000	200,000	0
雑損失	0	0	0
雑費	5,000	5,000	0
経常費用計	1,994,000	1,994,000	0
当期経常増減額	131,000	91,000	40,000
当期一般正味財産増減額	131,000	91,000	40,000
一般正味財産期首残高	5,369,176	4,760,186	608,990
一般正味財産期末残高	5,500,176	4,851,186	648,990
II 正味財産期末残高	5,500,176	4,851,186	648,990

第34回 InSEA (International Society for Education through Art 国際美術教育学会) 世界会議開催について

2008年8月の「第32回InSEA世界会議大阪大会」、2011年6月の「第33回InSEA世界会議、ハンガリー・ブダペスト大会」に引き続き、2014年7月7日から11日の予定で「第34回InSEA世界会議、オーストラリア・メルボルン大会」が開催されます。

大会テーマは「Diversity through Art 芸術における多様性」となっています。現在は下記のウェブサイトにもメールアドレス等を登録することで、情報を得ることができます。<http://insea2014.com>

また、本年6月24日～26日の日程で、イギリス・カンタベリーにおいて「InSEAヨーロッパ地区会議」が開催されます。来年の世界会議メルボルン大会の詳細もこの会議の後、明らかになります。



第34回InSEA
世界会議
メルボルン大会



第33回InSEA
世界会議
ブダペスト大会



第32回InSEA
世界会議
大阪大会



かるたワークショップ

幼小中学校教員、美術館関係者、連合会員、大学生、大学院生、画塾経営者の皆様へ

『公益社団法人日本美術教育連合主催講座のお知らせ』

－造形・美術教育力養成講座－

＜第1期2次目＞ 子どもの鑑賞の力をひらく

ご挨拶

日本美術教育連合は公益社団法人となりました。

このことを記念して、新しい事業を企画しました。その第1弾が本企画であります。

有能な会員の集団であります本連合の中で、選挙で選ばれた運営委員により運営され、講師は現在日本を代表する方々によって構成されています。

本年は、その2年めになります。昨年度参加いただいた皆さんの意見をくみ取りながら、皆さんで作上げる形式をとりました。そのため参加費は安く抑えてあります。参加してよかったと、全員が思える講座にします。

昨年同様の内容ですので、昨年飛び飛びにご参加くださった方々も、是非本年も、昨年参加できなかった回にご参加いただきたくお願い申し上げます。

(公益社団法人日本美術教育連合 理事長 宮坂元裕)

主旨：子どもたちの鑑賞力を育成する指導の在り方を多角的に提案し、講義と演習を通して実践力を高める連続講座を行ないます。一定の規程を満たした参加者には、公益社団法人日本美術教育連合からの認定書を授与します。

日程：8月26日（月）、8月27日（火）

会場：武蔵野美術大学新宿サテライト

東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル9階

日程：8月28日（水）

会場：CCAA（NPO市民の芸術活動推進委員会 四谷アートプラザ）

東京都新宿区四谷4-20

参加料金等：1コマにつき1,500円（日本美術教育連合会員、学生、院生は、1,000円）

（参加ご希望の方は、会場ごとにファックス送信票をご利用ください。随時受け付けています。）

FAX送信票

☐ ■ファックス送付先

武蔵野美術大学 教職課程研究室 大坪圭輔

個人研究室 F A X 番号 042-342-6373

回	講 座 名 ・ 日 時	参加希望 講座に○
1	講師：奥村高明（聖徳大学教授、前文科省教科調査官） 「子どもの鑑賞力とは何かー学習指導要領を読み解くー」 日時：8月26日 月曜日(10:00～12:00)	
2	講師：奥村高明（聖徳大学教授、前文科省教科調査官） 「アート・カードを使った鑑賞活動」 日時：8月26日 月曜日(13:30～15:30)	
3	講師：橋本光明（長野県信濃美術館・東山魁夷館館長、信州大学名誉教授） 「学校と美術館をどのように繋ぐか」 日時：8月26日 月曜日(16:00～18:00)	
4	講師：榎原弘二郎（埼玉大学名誉教授） 「見る力を生きる力として」 日時：8月27日 火曜日(10:00～12:00)	
5	講師：藤崎典子（前東京都小学校教諭） 「海外での鑑賞教育の事例」 日時：8月27日 火曜日(13:30～15:30)	
6	講師：水島尚喜（聖心女子大学教授） 「子どもにとって美とは何かーセンス・オブ・ワンダーをめぐってー」 日時：8月27日 火曜日(16:00～18:00)	

公益社団法人日本美術教育連合主催講座
—造形・美術教育力養成講座— <第1期>子どもの鑑賞の力をひらく
○印をつけた講座に参加を希望します。

●参加者氏名	
●参加者所属	
●連絡先電話番号 (内容変更時等の連絡用)	

FAX送信票

■ファックス送付先

CCAA（NPO市民の森芸術活動推進委員会四谷アートプラザ）

FAX番号 03-3354-2708

回	講座名・日時	参加希望 講座に○
7	講師：西村徳行（筑波大学附属小学校教諭） 「鑑賞ネタ集① 一子どもたちがつくったものから」 日時：8月28日 水曜日（10:00～12:00）	
8	講師：西村徳行（筑波大学附属小学校教諭） 「鑑賞ネタ集② 一作家作品を使った活動」 日時：8月28日 水曜日（13:00～15:00）	

公益社団法人日本美術教育連合主催講座
—造形・美術教育力養成講座— <第1期>子どもの鑑賞の力をひらく
○印をつけた講座に参加を希望します。

●参加者氏名	
●参加者所属	
●連絡先電話番号 (内容変更時等の連絡用)	

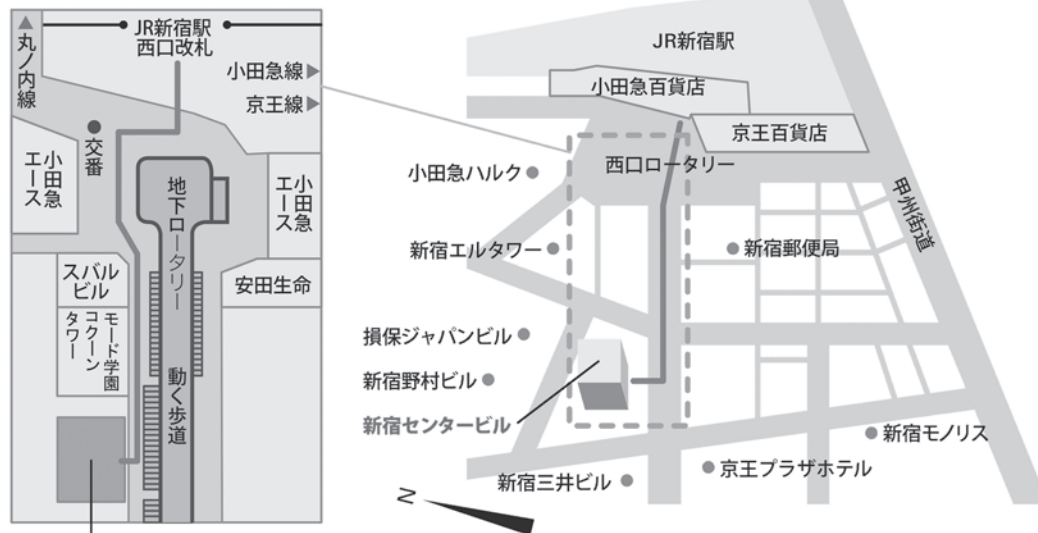
■ 8月26日（月）、8月27日（火）

武蔵野美術大学新宿サテライト

東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル 9階

武蔵野美術大学新宿サテライト

地下通路をご利用の場合



新宿センタービル

武蔵野美術大学新宿サテライト

東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 9階 JR 新宿駅西口より徒歩 5 分

■ 8月28日（水）

CCAA（NPO市民の芸術活動推進委員会 四谷アートプラザ）

東京都新宿区四谷 4-2 0



第47回 日本美術教育研究発表会 2013

【一次案内】

第1回日本美術教育研究発表会は1966年に開催されました。以来、歴史的な1965年InSEA東京世界大会の精神を反映させて美術教育の理論研究だけでなく、実践研究をも重視し発展させてきました。第47回を児童教育・造形表現・服飾美術等の学科を擁し、造形美術表現や教員養成にも力を入れている東京家政大学にて開催いたします。公益社団法人後3回目の今回もさらなる発展を期して、従前の口頭発表（発表20分＋協議5分）の他に①モジュール口頭発表（発表30分＋協議25分）3コマの新設、②授業実践ポスター発表（1室に4組が40分の同時発表）、③2012年度新設の研究ノート、④発表会改善アンケート（今年度運営反省と次年度企画提案）、以上四つの新たな試みを継続実施します。多くの方々の美術教育に関する研究発表や参加をお待ちしています。

日本美術教育連合研究局長 山口 喜雄

参 加 要 項

- 開催日時： 2013（平成25）年10月20日（日） 9時～17時30分（予定）
- 会場： 東京家政大学図書館棟 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
経路の詳細は同大学HP（http://www.tokyo-kasei.ac.jp/college/col_index.html）を参照願います。
- 参加費等： 参加費は無料、事前申し込みも不要です。会員以外の方でも参加できます。
100部限定『日本美術教育研究発表会2013概要集』を当日希望者に500円で頒布します。
- 主催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後援： 文部科学省（申請中）

〈口頭発表〉申込8／22（木）必着

- 発表資格： 本会会員であること。新規入会希望者は、「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に、「入会申込書」を下記のURLから印刷し、事務局宛てにお送りください。入会には会員1名の推薦が必要です。身近に会員がいない場合は下記問合先にご相談下さい。
- 発表時間： 入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です。
研究発表〈口頭発表〉20分 質疑応答5分 移動・準備5分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分 質疑応答25分 移動・準備5分〔役員会で選定〕
- 発表区分： A群・B群・C群・P群の4区分があり、「研究発表申込書」にどれかを明記して下さい。
A群：理論・実践研究論文（査読あり、投稿時に英文のサマリーが必要です）
B群：実践研究報告等（査読あり、題目のみ英文標記）、C群：研究ノート（同前）
P群：ポスター発表（同前）
- 発表方式： 申込時に希望機器を明記して下さい。①液晶プロジェクター（HD-D-Sub15ピン対応）、②スライドプロジェクター、③実物投影機
配布用のレジュメまたは資料等は、50～70部程度ご用意下さい。
- 発表申込： 「研究発表〈口頭発表〉申込書」の申込期限厳守 2013年8月22日（木）必着
申込書記入は日本美術教育連合HP掲載の様式で、E-mailまたは郵送で送付して下さい。
E-mail送付先：nibuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp 山口喜雄（宇都宮大学）宛
E-mailを送信後7日後以内に確認メールがない場合は、念のため再度送信して下さい。
郵送先：〒321-0848 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学教育学部 山口喜雄 宛
郵送申込の場合も概要集転記のため下記①～⑦はE-mailで全員必ず送付して下さい。
封書表左下またはメールの見出しに「●2013連合発表申込（氏名）」とお書き下さい。
①発表者氏名・所属先・職位（発表者複数の場合も全員／院生等は課程名・学年も記入）
②発表者連絡先 自宅〒・住所（帰省先も）、電話（携帯）、メールアドレス
③発表区分：A群・B群・C群・P群の別
④発表方式の別
⑤発表題目
⑥概要文（600字以内）
⑦『日本美術教育研究発表会2012概要集』1部500円をご希望の方は記入して下さい。
上記不備の場合は〈研究発表〉ができません。メールが使用できない方はご相談下さい。

備考・問合先

- 参照URL： <http://www.edu.gunma-u.ac.jp/bijutu/8.html>（役員・茂木一司作成／群馬大学）を参照。
- 当日時程： 9月下旬発行の『連合ニュース139号』に掲載し、会員に送付する予定です。
- 問合先： 研究局長・山口喜雄 〒321-0848 栃木県宇都宮市峰町350 宇都宮大学教育学部
山口研究室TEL&FAX 028(649)5364(直通)／E-mail nibuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

第47号 日本美術教育研究論集 2014 【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第47回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第47号研究論集2014』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の（１）～（５）の条件を全て満たしたものに限りします。
- （１） 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - （２） 投稿原稿が、研究論集の要項に適合して、書式・分量等が守られていること。
 - （３） 掲載料を期日（2013年11月13日）までに納入していること。
 - （４） 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
 - （５） 研究論集編集委員会において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読： A群（理論・実践研究論文）・B群（実践研究報告等）・C群（研究ノート）ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版（写真・表・図等）等、英文サマリー（A群のみ）を含め、下記の文字数を守って下さい。
- 1 頁分は、A 4 横組 2 段 23 字×44 行×2 段＝2024 字です。
- 第 1 頁のみ第 1 行目から第 5 行目（2 段取り）までに、題目（副題）・所属・氏名を記載し、本文との間に 2 行（2 段取り）のスペースを空け、本文は、8 行目から書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目（１）（２）（３）…、小項目①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁（C群のみ6頁も可）とし、掲載料は一般（給与を得ている内地留学生等を含む）は15,000円、院生・学生8,000円です。
- 2 頁増ごとに6,000円を加算し、10 頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 増頁の上限は12 頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1 頁につき12,500円を加算します。
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書（利用明細書のコピー等）を同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1- 86036（右寄せで記入）郵便振込です。
- 加入者名： 社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人： (〒) おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通信欄： 例 掲載料15,000円（一般、8 頁）＋増頁分6,000円（2 頁増の場合）＝21,000円（計10 頁）
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円（院生・学生は5,000円）のみ返金となります。

〈投稿原稿〉11/13（水）必着

- 投稿〆切： 2013（平成25）年11月13日（水）必着。A群・B群・C群とも、①正1部と副4部（コピー可）計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。なお、発行日は2014（平成26）年3月31日を予定しています。

- 送付先： 〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 筑波大学附属小学校内
公益社団法人日本美術教育連合 研究論集編集委員会 宛

連絡・問合せ先

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問 合 先： 研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111（代） ktakashi@zokei.ac.jp（東京造形大学）

公益社団法人 日本美術教育連合 入会申込書 (学生・一般)
○で囲んで下さい

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 宮 坂 元 裕 様

日本美術教育連合への入会を申し込みます。

平成 年 月 日

ふりがな

氏 名

印

■ 現住所 〒

電話・FAX (自宅) または携帯

■ 勤務先・職名

〔学生は学校名・学年(専攻名)〕

所在地 〒

電話・FAX (勤務先)

■ Eメール

■ 帰省先 (※ 夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話：現住所が同一の場合は以下空欄)

住 所 〒

電話・FAX (帰省先)

上記の方を会員として推薦いたします。

平成 年 月 日

会員氏名

印

※送付先・問い合わせ先 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1 筑波大学附属小学校
日本美術教育連合事務局長 西村 德行 宛
TEL+FAX 03-3946-1962 (図工部直通)
E-mail : tnishimura@elementary-s.tsukuba.ac.jp

※ 送付と同時に以下の要領で入会金と年度会費の「郵便振込」をお願いいたします。

口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入)

加 入 者 名：公益社団法人日本美術教育連合

通 信 欄：入会金 3,000 円 (入会時のみ) + 平成 25 年度会費 6,000 円 = 9,000 円

ご 依 頼 人：おところ (〒) ・おなまえ (電話)

第 47 回日本美術教育研究発表会 2013 研究発表申込書

○で囲んで下さい
(学生・一般)

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 宮坂 元裕 様

●日本美術教育研究論集第 47 号への投稿（有料）が可能です。
モジュール55分発表希望【有・無】（役員会審査、3組選定します）
ご希望の「発表区分」および頁数に○をつけて下さい。
発表区分 A群 理論・実践研究論文（査読あり・要英文サマリー）
B群 実践研究報告等（査読あり）
A・B群頁数 【8・10・12】頁（他、カラー頁有料 挿入可です）
C群 研究ノート【6・8】頁
P群 ポスター発表（役員会審査、4組選定します）
＊論集原稿の締め切りは、平成25年11月13日（水）必着です。

「第47回日本美術教育研究発表会2013」での研究発表を申し込みます。

平成 25年 月 日

ふりがな

氏 名

印

■ 現住所 〒

電話・FAX（自宅）または携帯

■ 勤務先・職名

〔学生・院生は学校名・学年（専攻名）〕

所在地 〒

電話・FAX（勤務先）

■ Eメール

■ 発表時使用機器（次の機器が使用可能です。ご希望の機器番号に○印をつけて下さい）

①OHP ②スライドプロジェクター ③液晶プロジェクター（HD-D-sub15ピン対応）

※液晶プロジェクター利用ご希望の方へ：

接続コネクタはHD-D-sub15ピン対応のため、対応する接続ケーブルを各自でご持参下さい。接続可能か不明の場合は、電気店等でお訪ね願います。

また、プロジェクター以外の機器類（パソコンやMOドライブ、変換ケーブル等）も各自でご持参下さい。

■ 帰省先（※ 夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話：現住所が同一の場合は、以下空欄）

住 所 〒

電話・FAX（帰省先）

■ 研究発表申込書郵送先：〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350 宇都宮大学教育学部 山口喜雄 宛

※封書表左下に「連合発表申込」とお書き下さい。下記メール送信のみも受け付けます。

■ 申込期限 平成 25（2013）年 8 月 22 日（木）必着（メール送信も左記同日〆切）

※問い合わせ先 E-mail／山口喜雄（宇都宮大学）：nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

発表題目

●重要：上記山口喜雄アドレス宛にタイトル「●2013 連合発表申込（氏名）」で、次の 1～7 を送信願います。

1. 発表者氏名・所属先・職位（複数の場合は全員／院生等は課程名・学年も記入）
2. 発表者連絡先 自宅〒・住所（帰省先も）、電話（携帯）、メールアドレス
3. 発表区分の別および頁数：A群・B群【8・10・12】頁、C群【6・8】頁、P群
4. 発表方式の別：①液晶プロジェクター、②スライドプロジェクター、③実物投影機
5. 発表題目および英文題目
6. 概要文（600字以内）
7. 『日本美術教育研究発表会 2013 概要集』（500円）購入希望の有無

事務局便り

■平成24年度 ご寄附の御礼

昨年度、会員及び賛助会員の皆様にご寄附のお願いをいたしましたところ、計632,000円もの多分なご芳志を頂戴いたしました。この場をおかりして御礼申し上げます。

【ご芳名】

大島忠昭・開隆堂出版(株)・株田昌彦・(公財)教育美術振興会・Google・小林昭子・(株)サクラクレパス・(公財)日本習字学会・服部鋼資・(株)美工堂・(株)美術出版サービスセンター・山口喜雄
(50音順／敬称略)

■平成24年度 会員の異動

平成24年度退会者

竹内 博 濱田 浩 松井 一雄

平成24年度入会者

石井 健 小口 偉 金子 優人 清水 信博 竹谷摩維子 新野 貴則
西尾 隆一 馬場 千晶 本間 美里 村上 尚徳 森 芸恵 山田 猛
王 節子

■平成25年度（2013年度）会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

平成25年度会費 6,000円 を 納入してください。

納入期限 2013（平成25）年8月30日（金）

* 同封の振り込み用紙をご利用ください。（手数料はご負担ください。）

お名前を記載した振込用紙に、納入済みの方は○、未納の方は－が印字されています。
ご確認ください。

* 平成19年度より会費の納入をお願いしておりますが、会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

▲3年以上の会費未納の皆様へ

* 平成24年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

* 納入期限：平成25年8月30日（金）

今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許しください。

■お問い合わせ先：事務局 筑波大学附属小学校図画工作科研究部 西村 徳行

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1筑波大学附属小学校

TEL+FAX 03-3946-1962（図工部直通）

E-mail tnishimura@elementary-s.tsukuba.ac.jp

【郵便振替】（公社）日本美術教育連合 口座番号 00170-1-86036